

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2	学年（コース）	1年普通科・理数科
使用教科書	教育出版 音楽Ⅰ Tutti				
副教材等					

1 学習目標

音楽の幅広い活動を通じて、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 指導の重点

・教科書の楽曲を中心に幅広い分野から教材曲を選定し、生徒が意欲を持って取り組めるようにする。
・授業では歌唱（合唱）、鑑賞、器楽（ギター、ハンドベル）が中心であるが、楽譜から表現方法や作曲者の意図を読み取るための基本的な音楽理論や音楽史の知識を身につけるようにする。

3 学習計画（「時間」の欄は授業時間 55 分を 1 時限とした時間数）

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	歌唱	校歌	斉唱、歌詞の意味、メロディの由来	・校歌を歌い、プリントを使用し、歌詞の意味やメロディの由来を書き込む。 ・「やさしい声」とは何かを説明し、ウォーミングアップを含む発声練習を兼ねて話してみる。 ・プリントを使用し、書き込んだり実際に動きながら学ぶ。	5	・おおきな声で歌えるか。書くことにより、歌詞の意味・メロディの由来を学べたか。 ・合唱に必要な「やさしい声」を理解できたか。 ・基礎的な理論を理解できたか。
	合唱		やさしい声			
	楽典	プリント 他	音符と休符			
			音名			
5	歌唱	合唱	歌声しやべり	・校歌や教科書の曲を使用し、「やさしい声」でウォーミングアップを含む発声練習も兼ねながら音読する。 ・2人1組で教科書を使用し、基本的なストローク奏法や、C・G・Am等の簡単なコードの押さえ方を習得する。 ・プリントを使用し、書き込んだり実際に動きながら学ぶ。 ・教科書を使用し、プリントに書き込みながら学ぶ。	8	・「やさしい声」で話すことに違和感えず定着したか。 ・お互いに学び合う中で積極的に練習に取り組んでいるか。 ・ギター実技に入る前の基本的なコードの作りも理解できたか。 ・基礎的な理論を理解できたか。 ・時代背景やバッハ、モーツァルト、ベートーヴェンの人生・音楽を学べたか。
	器楽	「カントリーロード」他	ギター演奏			
			コードネーム			
			バロック			
	楽典	プリント他	音価・変化記号			
	音楽史	プリント	バロック・古典派			
6	器楽	「キラキラ星」他	ハンドベル演奏	・少人数に分かれ鍵盤シートを使用しながら演奏する。 ・教科書、資料等を使用し、書きながら学ぶ。 ・第1回実技考査（歌唱） ・第1回筆記考査	5 1 1	・ハンドベルの基本的な演奏を理解できたか。 ・時代背景やショパンの人生、音楽を学べたか。 ・学んだ歌い方を習得出来たか。 ・歌唱、器楽、楽典、音楽史の復習。
	音楽史	プリント	古典派			
	考査					
7	器楽	「星に願いを」他	ハンドベル演奏	・13名程の人数に分かれて演奏する。	3	・ハンドベルの基礎を理解した上で、1つの曲を完成できる様、各グループ一体となって演奏できたか。
9	器楽	「カントリーロード」他	ギター演奏	・2人1組で教科書他を使用し、基本的なストローク奏法や、C、G、Am等の簡単なコードの押さえ方を習得する。 ・プリントを使用し、書き込みながら学ぶ。 ・教科書、資料等を使用し、書き込みながら学ぶ。	6	・お互いに学び合う中で積極的に練習に取り組んでいるか。 ・ギター実技に入る前の基本的なコードの作りを理解できたか。 ・時代背景やドビュッシーの人生、音楽について学べたか。
	音楽	プリント他	コードネーム			
	音楽史	プリント	近代			
10	歌唱	合唱	メロディと歌詞	・合唱曲を使用し、ウォーミングアップを含む発声練習を兼ねて、「文節歌い」を学ぶ。	8	・初期で身につけた声と体つきで取り組めたか。 ・お互い学び合う中で、
	楽典	「よろこびの歌」	ギター演奏			

	音楽史	他 プリント	現代	・2人1組で教科書を使用し、基本的なメロディ双方やタブ譜の読み方を習得する。 ・教科書、資料等を使用し、書き込みながら学ぶ。		積極的に取り組んでいるか。 ・タブ譜を正しく読み、ギターを演奏できたか。 ・時代背景やケージの人生、音楽について学べたか。
11	11 1 1 5 5	11 鑑賞	11 童謡	11 日本の伝統音楽の鑑賞と調べ学習	11 ・第2回実技考査（ギター） ・第2回筆記考査 ・DVD他を使用し、プリントに板書事項を書き込み、グループに分かれ歌詞に秘められた意味や由来を調べる。	11 ・学んだ奏法を習得できたか ・歌唱、器楽、楽典、音楽史の復習 ・童謡が作られた本当の意味を自ら調べることにより、より深く理解できたか。
12	12	12 歌唱	12 合唱	12 音程	12 ・合唱曲を使用し、ウォーミングアップを含む発声練習も兼ねながら「かわりばんこ歌い」を学ぶ。	12 ・身につけた声と体の使い方で音がつけられず、自分をコントロールする習慣が身に付いたか。
1	1	1 歌唱	1 合唱	1 表現	1 ・合唱曲を使用し、ウォーミングアップを含む発声練習を兼ねながら、楽譜から表現、強弱記号を探し、作曲者の曲に込めた思いを表現する。	1 ・作曲者の気持ちをくみ取り、自分なりに表現できたか。
2	2	2 歌唱 考査	2 合唱	2 表現	2 ・合唱曲を使用しウォーミングアップを含む発声練習を兼ねながら、楽譜から表現、強弱を探し、作曲者の曲に込めた思いを表現する。 ・第3回実技考査	2 ・作曲者の気持ちをくみ取り、自分なりに表現できたか。 ・クラスメイトの前で気持ちを音楽に乗せて表現できたか。
3	3	3 考査 終了コンサート	3 合唱コンサート	3 合唱曲	3 ・ノート提出 ・練習してきた合唱曲を仕上げで発表する。	3 ・1年間学んできた事をプリントに書き、ファイルにまとめたか。 ・クラスメイトの前で気持ちを音楽に乗せて表現できたか。 ・1年間学んできたことを生かし積極的に合唱に参加したか。

4 課題・提出物等

あらかじめ用意したプリント用紙に授業内容や板書事項、鑑賞曲等についての印象や感想を記述し、専用ファイルに入れ、提出します。

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

評価の観点・規準	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
評価の観点・規準	音楽授業への関心を深め、積極的に歌唱（合唱）器楽の練習・授業に加わっている。	楽曲に対する関心を深め、背景や音楽史を理解した上で自分自身の曲に対する気持ちを表現できる。	授業で学んだ技能を努力し身につけて音楽表現を行っている。	音楽鑑賞に興味を持ち、鑑賞した曲を理解し聴き取ることができる。
評価方法	・学習活動への参加状況 ・質問に対する発言内容	・学習活動への参加状況 ・質問に対する発言内容 ・定期考査	・定期考査	・学習活動への参加状況 ・質問に対する発言内容 ・提出物の内容・定期考査

以上の観点を踏まえ、

- ・授業への取り組み（授業中の態度、合唱や器楽練習、グループ課題への参加状況等）
- ・プリント用紙への記述と提出、またその内容
- ・年2回の筆記考査、歌唱実技考査、器楽実技考査等

以上から総合的に評価します。

6 担当者からの一言

多忙な高校生活の中で唯一リラックスできる教科ですが、意義のある楽しい時間になるかどうかは個人の努力にかかっています。様々な分野から音楽を学習し、今後の人生において音楽がどんな役割を果たすのか見つけて欲しいと思います。

教科(科目)	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2	学年(コース)	1年普通科・理数科
使用教科書	光村図書 書Ⅰ				
副教材等					

1 学習目標

- ・書写学習を基礎として表現及び鑑賞など書道の幅広い活動を通し書を愛好する心情を育てる。
- ・書作活動を通し感性を豊かにし、主体的表現のため書の基礎能力を伸ばす。

2 指導の重点

- ・「漢字の書」の学習では多様な書風に触れ表現技術を高め、それらを創作に生かしてゆく。
- ・「漢字仮名交りの書」の学習では身近かな題材や自らの感動を語句にして表現し、芸術的・実用的表現にまで高めていく。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	書に親しむ	用具・用材 基礎用語	書道についての基礎	・書道と書写 ・文房四宝 ・臨書と創作	4	・学習状況、態度、書写と書道の違いを理解したか ・古典の美を感じ、主体的に表現できたか ・篆書体の造形美を理解し、篆刻の面白さを味わえたか
5	古典を学ぶ（1）	孔子廟堂碑 建中告身帖 造像記	漢字古典の臨書（楷書）	・唐の四大家の書	6	
6	篆刻	白文印 朱文印	篆刻	篆書体を学び自分の篆書印を刻す	5	
7	創作（1）	「我成何処来」	競書大会出品作の制作	・古典の倣書による制作	4	
9	表具	掛軸装	文化祭（杉原祭）出品作	・自分の作品を掛軸に仕立てる	5	・掛軸仕立ての完成品として互いに鑑賞できたか ・行書の魅力を味わい用筆、運筆法が学べたか ・自由な表現により独自の工夫がなされたか
10	古典を学ぶ（2）	蘭亭序 集王聖教序	漢字古典の臨書（行書）	・「蘭亭序」を臨書する ・「集王聖教序」を臨書する	9	
11	創作（2）	五文字語句	漢字作品の創作	・楷、行、隸書の中のいずれかの書体を選び5文字語句の作品にまとめる	8	

12	刻字	自運 「五文字句」	刻字作品の制作	・ 5 文字作品を刻字板に 写しとり彫刻刀で彫り、 着色する	6	・ 紙に書かれた 作と違う刻字書 の魅力を感じた か
1	古典を学ぶ (3)	・ 張遷碑 ・ 木簡	隸書の学習	・ 隸書古典の臨書	7	・ 隸書体の美を 感じ取り表現法 を学んだか
2	創作	・ 少字数書 ・ 漢字仮名交り 書	創作作品の表現と鑑賞	・ 自己の感性に基づき自 由な表現をする	6	・ 創作表現の面 白さを体験し、 主体的に意欲的 に表現できたか
3	細字 (実用書)		実用書	・ 小筆を用いて実用書の 書き方を学ぶ	4	・ 生活の中の書 を表現すること ができたか

4 課題・提出物等

各学習項目で作成した作品をその都度提出する。

5 評価基準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
書を愛好し、意欲的、主体的に表現師や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし書のよさや美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、創造的に表現を工夫する。	創造的な表現をするために書写能力を高め用具、用材を生かして表現する技能を身に付けている。	日常生活における書の効用や日本及び中国等の書の文化などを理解し、そのよさや美しさを味わう。
以上の観点を踏まえ、 「書の美に関心を持ち意欲的・主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとする。」「自己を主体的に表現する能力を伸ばし基礎的能力を身につけている。」以上の点に基づいて評価する。			

6 担当者からの一言

単に技術的な面の伸長を図るだけではなく、個々の芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ芸術と幅広く、かつ主体的にかかわってゆくことを重視する。

教科(科目)	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2	学年(コース)	1年普通科・理数科
使用教科書	日本文教出版 美術Ⅰ				
副教材等					

1 学習目標

美術の幅広い創作活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化について理解を深める。

2 指導の重点

基礎的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

3 学習計画（「時間」の欄は授業時間55分を1時限とした時間数）

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	鑑賞	教科書	オリエンテーション	学習内容と心構え	1	・自己表現の構成と工夫 ・完成度 ・創作の意欲と態度等を評価の観点として作品を採点する。
	絵画	教科書	「油絵」制作 ・自画像	F10号キャンバスボードを使用し、油絵の具で自画像を描く	3	
5	絵画	教科書	「油絵」制作 ・自画像	F10号キャンバスボードを使用し、油絵の具で自画像を描く	6	
6	絵画	教科書	「油絵」制作 ・自画像	F10号キャンバスボードを使用し、油絵の具で自画像を描く	3	
	絵画	教科書	「油絵」制作 ・静物画	F10号キャンバスボードを使用し、油絵の具で静物画を描く	2	
7	絵画	教科書	「油絵」制作 ・静物画	F10号キャンバスボードを使用し、油絵の具で静物画を描く	4	・画面の構図 ・光と影の表現 ・完成度 ・創作意欲・態度等を評価の観点として作品を採点する。
9	絵画	教科書	「油絵」制作 ・静物画	F10号キャンバスボードを使用し、油絵の具で静物画を描く 杉原祭（文化祭）準備 油絵作品の展示と鑑賞	5	
10	彫刻	教科書 鉛筆 粘土 芯材 クロッキー帳	「塑像」制作	粘土2.4kgを使用し、友人の頭像を制作する	9	・立体的な表現 ・作品のボリューム ・頭部と首の

11	彫刻	教科書 鉛筆 粘土 芯材 クロッキー帳	「塑像」制作	粘土 2. 4 kg を使用し、友人の頭像を制作する	8	つながり ・完成度 ・創作意欲・態度等を評価の観点として作品を採点する。
12	デザイン	教科書 鉛筆 画用紙 ケント紙 ポスターカラー	「平面構成」	造形要素「線」「色」の持つ共通感覚をもとに、平面構成する	6	・作品の着想 ・完成度 ・創作意欲・態度等を評価の観点として作品を採点する。
1	絵画	鉛筆 クロッキー帳	「人物デッサン」	人物モデルを鉛筆でデッサンする	7	・デッサン力 ・粘り強く描き続ける態度を評価の観点として評価する。
2	絵画	鉛筆 クロッキー帳	「人物デッサン」	人物モデルを鉛筆でデッサンする	4	
	絵画	鉛筆 クロッキー帳	「石膏デッサン」	石膏像を鉛筆でデッサンする	2	
3	鑑賞	教科書	「美術史」	教科書を中心に西洋美術史、東洋・日本美術史を学習する	4	

4 課題・提出物等

表現の学習では作品を提出する。

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

評価の観点・規準	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	学習活動への参加状況 提出物の内容	学習活動への参加状況 提出物の内容	学習活動への参加状況 提出物の内容	学習活動への参加状況 提出物の内容

以上の観点を踏まえ、
評価は全クラスを通した基準を心がける。

6 担当者からの一言

粘り強く制作して、完成度の高い作品を目指してください。期待しています。

教科(科目)	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2	学年(コース)	1年普通科・理数科
使用教科書	光村図書 書道Ⅰ				
副教材等					

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 指導の重点

- ・「漢字の書」の学習では多様な書風に触れ表現技術を高め、それらを創作に生かしてゆく。
- ・「漢字仮名交りの書」の学習では自らの感動を語句にし、それを芸術的表現にまで高めていく。

3 学習計画（「時間」の欄は授業時間55分を1時限とした時間数）

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	書写から書道へ	用具・用材 基礎用語 永字八法	書道についての基礎	書写と書道 文房四宝 臨書と創作	5	学習状況、態度、書写と書道の違いを理解したか
	古典を学ぶ（1）	孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑	漢字古典の臨書（楷書）	温雅な書と厳正な書 軽快な書と重厚な書		楷書古典の多様な美を受け止め表現できたか。
5	古典を学ぶ（1）	牛髀造像記 鄭義下碑		雄強な書と雄大な書	6	学習した古典を基に表現できたか。
		臨書から倣書へ	古典を基に創作へ	表現や鑑賞を目的とした書作品		
6	漢字仮名交じり文（1）	杉原祭出品 掛け軸作品	漢字仮名交じりの語句の選定と表面意図の設定	漢字と仮名の調和を考え、表現の工夫をする	6	全体構成や漢字と仮名の調和がとられたか
7	篆刻	白文印 朱文印	篆刻	篆書体を学び 自分の篆書印を刻す	6	篆書の美を理解し、篆刻の面白さを味わえたか
9	漢字仮名交じり文（2）	杉原祭出品 掛け軸作品	作品の仕上げと鑑賞	自分の作品と他の生徒の作品を鑑賞し発表する。		自らの意を表現する楽しみや喜びを味わえたか。
	くらしの中の書（1）	硬筆練習帳 はがき 封筒 のし袋 履歴書	硬筆・毛筆細字	ペン・小筆による実用書を美しく正しく書く作法を身に付ける	7	使用する目的に応じて文字の大きさ、太さ、配置に配慮し丁寧に読みやすく書けたか

10	古典を学ぶ(3)	平仮名 変体 仮名 高野切れ第三種 和歌の散らし書き	仮名古典の臨書 仮名の創作作品	漢字から仮名への変遷 仮名の美	7	日本で生まれた我が国固有の文字の大切さを理解し表現できたか
11	古典を学ぶ(5)	蘭亭序 風信帖 真草千字文	漢字古典の臨書(行書) 漢字古典の臨書(草書)	行書と草書の筆意・筆脈を理解し修得する	6	筆意・筆脈を理解し、合理的な用筆法を修得できたか
12		曹全碑 泰山刻石	漢字古典の臨書(隸書) 漢字古典の臨書(篆書)	隸書の基本 篆書を通し文字の変遷を学ぶ	5	隸書体の結体と用筆が修得できたか 漢字の変遷を理解できたか
1	刻字	自運 「5文字句」	刻字作品の元となる「5文字句」を創意工夫し紙面にまとめる	渴筆など意識的に盛り込む	5	創意ある書表現ができたか
2			紙に書かれた文字を板に写しとる 彫刻刀を使って刻する	渴筆部を丁寧に写しとる	6	工芸書の面白味を味わい丁寧な作業ができたか
3			全体を地塗りする 文字に白を入れて完成		5	

4 課題・提出物等

各学習項目で作成した作品をその都度提出する。

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

評価の観点・規準	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
	書を愛好し、主体的・意欲的に表現または鑑賞活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし、書の美を感じとり、自らの意図に基づき構想し、創造的に表現を工夫する。	創造的表現をするために書写能力を高め用具、用材を生かして表現する技能を身に付けている。	日常生活における書の効用や日本及び中国等の書の文化などを理解し、そのよさや美を味わう。
評価方法	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発問に対する発言内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容	・学習活動への参加状況 ・提出物の内容 ・発表内容

以上の観点を踏まえ、「書の美に関心を持ち意欲的・主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとする。」「自己を主体的に表現する能力を伸ばし基礎的能力を身につけている。」以上の点に基づいて評価する。

6 担当者からの一言

単に技術面の伸長を図るだけではなく、個々の芸術に対してのとらえ方や考え方を深化させ芸術と幅広く、かつ主体的に関わってゆくことを重視する。

教科(科目)	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2	学年(コース)	1年普通科・理数科
使用教科書	光村図書 書Ⅰ				
副教材等					

1 学習目標

- ・書写学習を基礎として表現及び鑑賞など書道の幅広い活動を通し書を愛好する心情を育てる。
- ・書作活動を通し感性を豊かにし、主体的表現のため書の基礎能力を伸ばす。

2 指導の重点

- ・「漢字の書」の学習では多様な書風に触れ表現技術を高め、それらを創作に生かしてゆく。
- ・「漢字仮名交りの書」の学習では身近かな題材や自らの感動を語句にして表現し、芸術的・実用的表現にまで高めていく。

3 学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	書に親しむ	用具・用材 基礎用語	書道についての基礎	・書道と書写 ・文房四宝 ・臨書と創作	4	・学習状況、態度、書写と書道の違いを理解したか ・古典の美を感じ、主体的に表現できたか ・篆書体の造形美を理解し、篆刻の面白さを味わえたか
5	古典を学ぶ（1）	孔子廟堂碑 建中告身帖 造像記	漢字古典の臨書（楷書）	・唐の四大家の書	6	
6	篆刻	白文印 朱文印	篆刻	篆書体を学び自分の篆書印を刻す	5	
7	創作（1）	「我成何処来」	競書大会出品作の制作	・古典の倣書による制作	4	
9	表具	掛軸装	文化祭（杉原祭）出品作	・自分の作品を掛軸に仕立てる	5	・掛軸仕立ての完成品として互いに鑑賞できたか ・行書の魅力を味わい用筆、運筆法が学べたか ・自由な表現により独自の工夫がなされたか
10	古典を学ぶ（2）	蘭亭序 集王聖教序	漢字古典の臨書（行書）	・「蘭亭序」を臨書する ・「集王聖教序」を臨書する	9	
11	創作（2）	五文字語句	漢字作品の創作	・楷、行、隸書の中のいずれかの書体を選び5文字語句の作品にまとめる	8	

12	刻字	自運 「五文字句」	刻字作品の制作	・ 5 文字作品を刻字板に 写しとり彫刻刀で彫り、 着色する	6	・ 紙に書かれた 作と違う刻字書 の魅力を感じた か
1	古典を学ぶ (3)	・ 張遷碑 ・ 木簡	隸書の学習	・ 隸書古典の臨書	7	・ 隸書体の美を 感じ取り表現法 を学んだか
2	創作	・ 少字数書 ・ 漢字仮名交り 書	創作作品の表現と鑑賞	・ 自己の感性に基づき自 由な表現をする	6	・ 創作表現の面 白さを体験し、 主体的に意欲的 に表現できたか
3	細字 (実用書)		実用書	・ 小筆を用いて実用書の 書き方を学ぶ	4	・ 生活の中の書 を表現すること ができたか

4 課題・提出物等

各学習項目で作成した作品をその都度提出する。

5 評価基準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
書を愛好し、意欲的、主体的に表現師や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を豊かにし書のよさや美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、創造的に表現を工夫する。	創造的な表現をするために書写能力を高め用具、用材を生かして表現する技能を身に付けている。	日常生活における書の効用や日本及び中国等の書の文化などを理解し、そのよさや美しさを味わう。

以上の観点を踏まえ、
「書の美に関心を持ち意欲的・主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとする。」「自己を主体的に表現する能力を伸ばし基礎的能力を身につけている。」以上の点に基づいて評価する。

6 担当者からの一言

単に技術的な面の伸長を図るだけではなく、個々の芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ芸術と幅広く、かつ主体的にかかわってゆくことを重視する。